

和歌山県花き振興計画（令和3年度～令和7年度）

策定の根拠法令

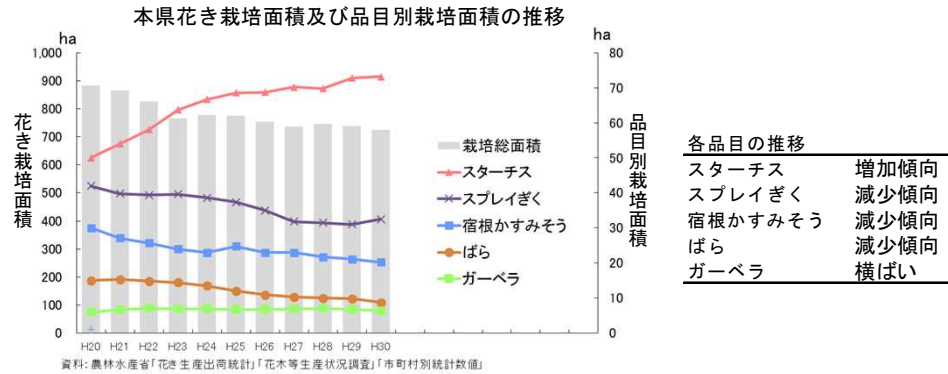
花きの振興に関する法律 第4条

現状と課題

【生産】

① 花きの生産状況

栽培面積はH6をピークに減少傾向であったが、ここ最近では横ばいに転じ720～740haで推移。産出額はH5をピークに減少傾向であったが、ここ10年は60億円台から70億円台へと増加傾向に転じた

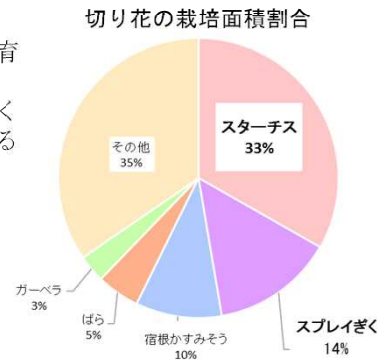


② 施設栽培の拡大と施設の高度化

県単事業のメニュー化によりパイプハウスの40%が高度化できたものの、目標の50%には届いていない

③ 県オリジナル品種の育成と普及

スターチスはこれまでオリジナル品種を12品種育成したものの栽培面積は6haに留まる
切り花栽培面積のうちスターチスとスプレイぎくの占める割合が約50%あり、これら2品目に対する依存度が高い



【販売】

① 多様な流通・販売への対応

スーパーやホームセンター、ネット通販での花の購入が増加。
R2年のコロナ禍において、ホームユースが増加

今回計画のポイント

- ・施設の高度化、高品質化・省エネ化により災害に強く・収益性の高い産地づくりの推進
- ・次世代花きの探索・導入による新たな産地形成の推進

今回計画の目標

| | 平成30年度 | 令和7年度（目標） |
|-----------|--------|-----------|
| 栽培面積 (ha) | 724 | 739 |
| 産出額 (億円) | 71 | 76 |

今回計画の概要

- 生産基盤の整備
 - ・気象災害に強い施設の高度化の推進 **Point**
 - ・高度な環境制御技術の導入の推進 **Point**
 - ・省力化・省エネ機械の導入の推進 **Point**
- 県オリジナル新品種・新規導入品目・リバイバル品目の探索と普及
 - ・種苗コスト低減につながる優良品種の育成と普及（スターチス、スプレイぎく）
 - ・次世代花きの探索と導入による新たな産地形成の推進 **Point**
- 担い手の育成・確保
 - ・就農モデルプランの発信による新規就農者の育成・確保
 - ・県農林大学校における農業系高校との一貫教育の構築
 - ・法人や協業組織の育成
- 経営基盤の強化
 - ・新規就農者等担い手への農地集積の推進
 - ・セーフティネット（園芸施設共済・収入保険・燃油価格高騰対策事業）の活用促進
- 鮮度保持・低温流通
 - ・日持ち性や鮮度を高めた流通の促進
- 多様な販売と消費拡大
 - ・“自宅で過ごす時間”向け花きの生産と販売を促進
 - ・母の日参り運動の全国展開等新たな物日づくりの促進
 - ・東京オリンピックや万博等国際的イベントでの県産花きのPR・利用促進
- 花育活動
 - ・小学生等への花育の推進
- 環境にやさしい花づくり
 - ・農業由来廃プラスチックの適正処理と排出抑制による環境負荷低減の推進

